



特定非営利活動法人 ハート・オブ・ゴールド 活動報告集 2017



この法人は、被災地や紛争地及び開発途上国の子ども達、障がい者、貧困層の人々に対して実施するスポーツや教育、その他の活動が、人生にチャレンジするための「希望と勇気」を持てる機会を創ることを目的とする。

特に、苦境に立ち向かう人々が自分達の抱える問題を自らの力で解決していく自立へとつながることを目指し、彼らと共に人材育成に力を注いでいく。

2018年5月31日発行

特定非営利活動法人 ハート・オブ・ゴールド
〒701-1213 岡山市北区西辛川 895-7-101
TEL/FAX:086-284-9700 Email:hginfo@hofg.org
<http://www.hofg.org/> <http://www.facebook.com/heartsogold.japan>

ハート・オブ・ゴールド設立 20 年に向けて

ハート・オブ・ゴールド (HG) は 2018 年 10 月 10 日で設立 20 周年を迎えます。1998 年 10 月 10 日に大阪府で設立された HG は、世界の子供達にスポーツで生きる力を与えたいとの思いでいっぱいでした。

カンボジアでの活動は、1996 年に開催されたチャリティーレース：「第 1 回アンコールワット国際ハーフマラソン」に参加したことから始まりました。その目的は、チャリティーマラソンを通じて対人地雷の廃絶を訴え、対人地雷被害者を救済し、子どもの健康改善の支援を提供することでした。その翌年にカンボジア国内は、政情不安に陥り、大会の開催すら危ぶまれました。しかし、最終的に第 2 回大会が開催され、当時の第 1 首相と第 2 首相が並走する姿はメディアを通じて全世界を駆け巡り、カンボジアの安全性を世界にアピールすることとなりました。この経験はスポーツイベントの果たす社会的な役割と可能性を私に気付かせてくれました。

その後、HG は大会運営を支えながら運営者を育成しましたが、とうとう 2013 年の第 18 回大会でマラソン運営をカンボジアに全面移譲することができました。第 1 回大会に比べると、昨年 2016 年の第 21 回大会では、参加者数が 645 人から 9,150 人へ増加し、参加国も 16 カ国から 85 カ国になるなど、国際チャリティーマラソンとして世界中から愛される大会に成長しています。

2001 年からは現地の要望を受けて、マラソン大会前後の日程で「青少年指導者育成スポーツ祭」を始めました。マラソンのみならず、サッカー、バレー、バスケットなど、日本の専門家が現地の先生に指導法を教え、指導を受けた先生が子どもを教えるプログラムが提供され始めました。

そのスポーツ祭を 5 年間継続した後、2006 年からはカンボジアの小学校体育の授業を充実させるために、カンボジア教育青年スポーツ省の学校体育スポーツ局の皆さんとの活動を始めました。本格的な体育科教育がなかったカンボジアで、この事業を進めることは、いろいろな困難が伴いました。しかし、国づくりに情熱を燃やす体育事業担当の方々と HG のスタッフは、一つひとつ課題を解決しながら出来る限り丁寧に進めてまいりました。スポーツを通じた国際協力の初めてのケースとして、官 (JICA)、民 (NPO ハート・オブ・ゴールド)、学 (筑波大学) が連携して、小学校体育科支援事業をスタートさせたのです。その連携の元でおよそ 10 年間、学習指導要領・指導書の作成、そして現場への普及などの支援を提供しました。事業は、2016 年 9 月に終了し、教育省に引き継がれました。現在、15 州の小学校モデル校で新体育授業が子ども達に提供され、体育教育の一環として運動会を開催している小学校も出始めています。



2015 年から、スポーツ・フォー・トゥモロー事業として、中学校体育の学習指導要領の作成支援 (日本スポーツ振興センター再委託) に取り組みました。翌年 12 月には中学校体育科教育学習指導要領の認定式がカンボジアで盛大に執り行われ、現在、中学校体育科指導書作成が進んでいます。カンボジアの体育科教育は技能、知識の習得に留まらず、協調性や態度を育成することが目標に掲げられています。HG がカンボジアの児童・生徒の「健やかな体と豊かな心」を作り育む過程に携わられたことを誇りに思います。

また、シェムリアップでは、行き場を無くした子ども達への自立支援として、養護施設 New Child Care Center の養育が日本の里親 (ハート・ペアレント) 支援によって営まれています。現地の要請によってチェイ小学校 (2011 年から) と Build Bright University (2015 年から) で日本語教育が提供されています。多くの若者が日本語を学ぶことで、現地で日本との懸け橋となり自立に向けて歩み出しています。

カンボジア人によるカンボジアの発展を実現するには人材育成が何よりも必要とされます。日本語で教育は「教え育てる」と書きますが、私は共に育つ (学び合う) 共育こそが最も重要なことだと思っています。これからも、HG は活動に参加した皆様と、共に学び、育ちつつ、根気強く**人材育成/ソフト支援**を継続してまいりたいと思います。20 年を迎えるにあたり、皆さまのご参加を歓迎いたします。

2017年度 事業報告書

(期間：2017年4月1日～2018年3月31日)

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業分類	事業名	主な事業内容	実施場所	頁
国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力事業	・アンコールワット国際ハーフマラソン(AWHM)後援 ・アンコールウォーキング大会	・スタディツアーの有志が参加し大会を盛り上げた ・参加者は10,557人(78カ国・地域から)と過去最高 ・遺跡内を地元の子ども達と歩き、交流した	カンボジア(シエムリアップ)	3
	・チャリティイベント(スポーツエイド)	・チャリティマラソンやバザーなどのチャリティイベントの開催協力(計21回)	日本	
スポーツを通じた開発支援事業	・中学校体育科教育指導書作成支援事業(JICA草の根技術協力)	・岡出日体大教授や鈴木学芸大准教授を招聘して指導書作成のためのワークショップ開催。指導書ドラフト改善のためモデル州でのワークショップやモニタリングを実施 ・岡山県にて教育省担当官の本邦研修を実施	カンボジア	4
	・カンボジアにおける体育・運動会普及支援活動	・バタンバン州の小学校7校で実施した運動会を中心に動画作成、ホームページ作成のための活動を実施	カンボジア	5
	・スポーツ施設設置	・体育拠点小学校・中学校に施設を支援(鉄棒7校、マット10校に10枚、ボール3校に39個、ストップウォッチ3校に15個)	カンボジア	9
障がい者支援事業	・障がい者陸上支援事業	・岡山県/市パラキャンプ誘致推進事業補助金を受け、カンボジア車いすランナーの強化合宿(パラキャンプ)を実施 ・第2回パラ陸上競技会を開催	岡山県 カンボジア	6
	・日本のマラソン大会への招聘	・障がい者ランナーをかすみがうらマラソンに招聘	日本	
被災地・紛争地における自立・復興支援事業	・日本語教育	・チェイ小学校での日本語教室、NCCCでの日本語教室 ・BBU大学での日本語講座	カンボジア(シエムリアップ)	7
	・養護施設(NCCC)運営	・孤児や貧困児童を受入れ養育する(里親制度)。 ・ローカルスタッフの人材育成 ・日本の学校との交流	カンボジア(シエムリアップ)	8
	・子どもの健康増進・疾病予防	・12月に日本人医師(TAO)による歯科検診(チェイ小) ・むし歯予防のための歯磨き指導 ・小学校に設置した浄水器のメンテナンス	カンボジア	
国際理解・交流事業	・スタディツアー	・国際協力の現場見学とボランティア体験や交流により貧困・平和・開発について理解を深める ・学生や団体のスタディツアー受入れ(計26回)	カンボジア	9
	・サービスマニシング(ESD=持続可能な開発のための教育)	・学校や団体に講師を派遣(計21回) ・国際協力の実践的学習の場を学校に提供 ・スカイプや文通、メールによる現場との交流の機会提供	日本 カンボジア	
	・研修・啓発・講演会	・国際協力パネル展に出品、講演会に参加(計18回)		
	・インターン等受入れ(国内外)	・インターン・ボランティアの受入れ(短・長期)(計6人)		
その他、本法人の目的を達成するために必要な事業	・調査/研修 ・広報活動	・調査実施。シンポジウム、国際会議への参加 ・「通信」を年2回発行 ・ホームページのリニューアルと更新、記録映像の保存 ・パラキャンプとJICA中学校事業本邦研修のマスメディア発信 ・20周年記念ブックレット作成準備	日本 カンボジア	


(2) その他の事業

定款の事業分類	事業名	事業内容	実施場所	実施日
バザーその他物品販売事業	・チャリティバザー ・グッズ販売 ・パネル展示	・各地で開催されるイベントへの参加。 ・Tシャツなどの販売やパネル展示を通して活動資金を集めるとともに、活動の広報を通して国内での支援者の拡大を図る。	日本	随時

事業名	アンコールワット国際ハーフマラソン後援、アンコールウォーキング大会	
事業分類	国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力	
協働団体	カンボジアオリンピック委員会 (NOC)、カンボジア陸上競技連盟 (KAAF)、カンボジア観光省	
活動概要		
大会趣旨:		
<ul style="list-style-type: none"> ・世界に向かって「非人道的な対人地雷の使用禁止」を訴える。 ・大会エントリー費用は、義手義足と地雷被害者の社会復帰・自立を支援するとともに、青少年エイズ予防支援活動等に活用される。 ・健常者だけでなく、障がい者にも、共に走ることを通じて、勇気と希望を与える。 ・カンボジアに対する世界各国からの支援に感謝し、元気なカンボジアを訴求する。 ・公認及び協カツアの旅行代金の一部とその他の寄付をカンボジアのスポーツ振興に役立てる。 		
テーマ: “Building a better future – Aid for children and disabled people in Cambodia”		
主催: カンボジア観光省、カンボジアオリンピック委員会 (NOC)、カンボジア陸上競技連盟 (KAAF)		
主管: カンボジア陸上競技連盟 (KAAF)		
運営: アンコールワット国際ハーフマラソン組織委員会・実行委員会、Cambodia Events Organizer Co., Ltd.(CE)		
後援: カンボジア政府、シェムリアップ州、観光省、文化・芸術省、教育・青年・スポーツ省、在カンボジア日本国大使館、ハート・オブ・ゴールド、在日本カンボジア大使館、APSARA Authority、カンボジア赤十字、カンボジアトラスト、ハンディキャップ・インタナショナル、アンコール小児病院、ロイヤルアンコール国際病院、サンライズジャパンホスピタル、Sokha Siem Reap Resort & Convention		
日時: 2017年12月3日(日) 午前6時00分スタート		
種目: ハーフマラソン(男女/車椅子男女),10km ロードレース(男女/義足男女/義手男女),3km ファン・ラン(オープン)		
コース: アンコール遺跡周回特設コース		
プレ・イベント: ・コースチェック(12/2):運営:CE ・前夜祭(12/2):運営:観光省、CE		
参加者: 10,557人(78カ国・地域から) ※参加者は過去最高。		
チャリティ: 本年度:US\$116,400(カンボジア赤十字、カンボジア・トラスト、ハンディキャップ・インタナショナル、カンボジア障がい者陸連、アンコール小児病院、ハート・オブ・ゴールド)		
第1回大会(1996)から第21回大会(昨年)までの合計:US\$526,017		
▶本年第22回大会のハート・オブ・ゴールドへの寄付金は合計US\$8,400(内訳:NCCCにUS\$2,000、障がい者支援にUS\$2,400、体育教育にUS\$2,000、自立支援にUS\$2,000)		
特記事項:		
<ul style="list-style-type: none"> ● 有森代表は1996年の第1回大会から参加し、ハート・オブ・ゴールドは創立の1998年から特別運営協力を行ってきた。2013年開催の18回大会からはカンボジア側に広報、準備、資金調達、会計、運営を全面移譲した。今大会は、アンコールワットでのフンセン首相による仏教儀式と重なり、急なコース変更があったが、事故もなく無事に実施された。 ● 日本からは当会のスタディツアーとして30名が11月30日からカンボジアを訪れ、有森代表を囲んだ歓迎パーティ、エイズ撲滅の願いを込めたウォーキングイベント、当会が運営する養護施設(ニュー・チャイルド・ケア・センター:NCCC)訪問などを行い、アンコールワット国際ハーフマラソンに参加した。 ● 有森賞に選ばれた10km義手男子5位のRath Chanさんは、本年4月15日に開催されるかすみがうらマラソンに招待される。 ● 12月1日のウォーキングイベントには、スタディツアー参加者30名、NCCCの子ども達17名、チェイ小学校の児童60名、BBU日本語教室の学生10名が参加し、アンコールワット正門前から象のテラスまでの約5kmをみんなで歩いた後、レクリエーションとしてエアロビクスやゲームを行い、子ども達と交流した。 		
支援・協力団体:		
かすみがうらマラソン、(株)RIGHTS、タイヨー薬局、兵庫県高校陸上競技部有志、日立建機		



事業名	カンボジア王国中学校体育科教育指導書作成支援・普及事業(JICA 草の根技術協力事業)	
事業分類	スポーツを通じた開発支援	
支援団体	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省、地方教育局、モデル中学校	
活動理由		
<p>カンボジアでは 1970 年代の内戦で、施設、人材・教材等、教育システムが根底から破壊された。1991 年のパリ和平協定以降、教育インフラの再建は進められていたが、人間性の発達の根幹を担う情操教育には殆ど着手されていなかった。なかでも国家の未来を担う子ども達の心身の健全な育成のために重要な役割を果たす体育科教育はほとんど行われておらず、簡易運動に留まっていた。当会は、まず小学校体育科教育の復興のため、2006 年から 11 年に亘り、教育・青年・スポーツ省、JICA、筑波大学との連携を図り、学習指導要領の新訂と指導書作成の支援、15 州の 13 教員養成校と 33 小学校への普及と教育省の自立的普及のための人材育成等をおこなった。</p>		
<p>続いて 2015 年からは中学校体育科教育の支援を開始し、学習指導要領作成支援と人材育成のための事業を実施した。2016 年 12 月に学習指導要領が教育・青年・スポーツ省により認定され、体育の授業で、7 領域 20 種目を通して、「態度、知識、技能、協調性」を教えていくことが明記された。現在は、それに沿った指導書の作成支援と普及のためのワークショップやモニタリングを実施している。</p>		
<p>引き続き、小・中学校の一貫した体育科教育の確立を目指して活動をおこなっていく計画である。</p>		
本年度の活動概要 (2017 年 4 月～2018 年 3 月)		
<p>1) 中学校体育科教育指導書作成支援事業(JICA 草の根技術協力事業)(2017 年 4 月～2018 年 3 月)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指導書作成ワークショップ(2 回) <ul style="list-style-type: none"> ● 指導書を作成するにあたって、フォーマットやスケジュール、記載方法等について合意を図るためのワークショップ ● 1 回は岡出美則教授(日本体育大学)、もう 1 回は鈴木聡准教授(東京学芸大学)を講師として招聘した。 2. 学習指導要領導入ワークショップ(国立体育・スポーツ研究所) <ul style="list-style-type: none"> ● 体育教員養成機関である国立体育・スポーツ研究所に対して、新しい学習指導要領を紹介するワークショップ 3. 指導書ドラフト試行ワークショップ(プノンペン市、スヴァイリエン州、バタンバン州、各 1 回) <ul style="list-style-type: none"> ● 作成中の指導書ドラフトを紹介して、より分かりやすい指導書に改善していくために必要な情報を集めるためのワークショップ ● ベースライン把握のため、新しい体育に対する教員の理解度を確認する質問票による調査を実施 4. 本邦研修(2017 年 11 月 12 日～17 日) <ul style="list-style-type: none"> ● 日本の体育を見たことのない、学校体育・スポーツ局担当官 1 名、国立体育・スポーツ研究所担当官 5 名を対象とした岡山での体育研修(小学校 1 校、中学校 4 校を視察、岡山県教育庁、岡山大学で受講) ● 体育の授業では、スポーツ技術だけを教えるのではなく、態度や知識も学ぶことを再確認した。 5. 体育授業評価シート コンサルテーション・ワークショップ(1 回) <ul style="list-style-type: none"> ● 体育授業をモニタリングする際に共通の視点で授業を評価できるようにするための評価シートについて検討するワークショップ 6. 体育授業モニタリング(プノンペン市、バタンバン州、スヴァイリエン州、各 1 回) <ul style="list-style-type: none"> ● プノンペン市とバタンバン州とスヴァイリエン州の計 15 校の中学校の体育授業 ● を、評価シートを利用して評価。 		
次年度の実施計画		
<ul style="list-style-type: none"> ● 指導書作成ワークショップ(4 回) ● 指導書ドラフト試行ワークショップ(プノンペン、バタンバン、スヴァイリエン)(各 2 回) ● 指導書認定 ● 学習指導要領と指導書案の活用状況確認のモニタリング(プノンペン、バタンバン、スヴァイリエン)(各 1 回) 		
<p>支援・協力団体 (独法)国際協力機構(JICA)、日本体育大学、東京学芸大学、篠山 ABC マラソン大会実行委員会、みしまマラソン大会実行委員会</p>		

事業名	カンボジアにおける体育・運動会普及支援活動	
事業分類	スポーツを通じた開発支援	
支援団体	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省、地方教育局	

活動理由

カンボジアでは1970年代の内戦で、施設、人材・教材等、教育システムが根底から破壊された。1991年のパリ和平協定以降、教育インフラの再建が進められていたが、人間性の発達の根幹を担う情操教育には殆ど着手されていなかった。なかでも、国家の未来を担う子ども達の心身の健康・健全育成のために重要な役割を果たす体育科教育はほとんど行われておらず、簡易運動に留まっていた。当会は、2006年から11年に亘り、JICA 草の根技術協力事業の下、教育・青年・スポーツ省と協働で、小学校体育科教育の全国的な普及を目指して、学習指導要領の新訂、指導書作成の支援、15州13教員養成校、33小学校への体育の普及と教育省内の自立的普及のための人材育成に取り組んだ。

2016年にJICA 草の根事業は一通り終了したが、体育教育を普及していくためには、継続した支援が必要となる。当会は2013年からモデル小学校において、日頃の体育の成果を発揮する場として、保護者や地域の方々にも披露することによって体育について理解してもらうことを目的として運動会支援事業を展開してきた。カンボジア全土の約7,000校に体育を普及していくためには、体育や運動会の動画を当会のホームページに載せて、カンボジアの地方でも広く利用されているスマートフォン等で見てもらうことが効果的だと考え、岡山大学、岡山南ロータリークラブとの連携により、体育と運動会のホームページ作成を開始した。

本年度の活動概要 (2017年4月～2018年3月)

1) 体育科教育普及のための運動会事業(2017年4月～2018年3月)

1. バットンバン州運動会開催支援

- 以下の小学校7校において12月22日、23日、25日に運動会が開催され、岡山大学から教員1名、学生12名、元青年海外協力隊員1名、ハート・オブ・ゴールドから3名が参加し、ホームページ用の動画撮影や開催協力を行った。

- ワットリエブ小学校(2017年12月22日)
- ミタピアップ小学校(2017年12月22日)
- トウコブ小学校(2017年12月22日)
- チアシム小学校(2017年12月23日)
- ピートウヌ小学校(2017年12月23日)
- ワットコンペイン小学校(2017年12月23日)
- アンロンベル小学校(2017年12月25日)

2. プログラム例(ワットリエブ小学校、バットンバン州)

- 玉入れ(1年生) - 陸上(投)
- ボールパスゲーム(2年生) - バスケットボール
- 石けり(3年生) - サッカー
- タンク当てゲーム(4年生) - 陸上(投)
- リレー(4年生) - 陸上(走)
- ハードル(5年生) - 陸上(走)
- フラフープ移動ゲーム(5年生) - リズム運動
- 袋競争(6年生) - リズム運動
- 綱引き(6年生) - リズム運動
- 友好玉入れ(教員・ゲスト)

3. ホームページ作成

- 体育のホームページについては、運動会のフォーマットと体裁が決まり、動画の編集は岡山大学の学生が中心となり、編集を進めている。



ミタピアップ小学校の運動会後の全体写真



ワットリエブ小学校の様子



チアシム小学校の様子

次年度の実施計画

- 体育ホームページ用動画編集
- 体育・運動会ホームページ公開

支援・協力団体

岡山大学、篠山 ABC マラソン大会実行委員会、みしま西山連峰登山マラソン大会実行委員会、HG 長岡クラブ、親子チャリティマラソン in おもちゃ王国、岡山南ロータリークラブ

事業名	カンボジア王国 障がい者陸上支援事業	
事業分類	障がい者支援	
支援団体	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省、カンボジアパラリンピック委員会、障がい者陸上連盟	
活動理由 <p>カンボジアでは、いまだに障がい者は前世で悪いことをしたためと言われることがあり、社会に出ることが難しい。当会は、毎年12月に開催されるアンコールワット国際ハーフマラソン(AWHM)に障がい者ランナーが参加できる仕組みを作り、障がいがあっても社会に出ることができるようになるという希望を持てるようになったり、マラソン大会の登録費からチャリティとして義手・義足製作のための寄付をする等の支援をしてきた。AWHMで上位に入賞した障がい者ランナーを、AWHMの姉妹マラソンであるかすみがうらマラソンに招待する等、障がい者がより多くのスポーツに参加できるように機会を提供してきた。</p> <p>また、カンボジアのパラリンピック委員会や障がい者陸上連盟と共同で、障がい者の陸上トレーニングを支援してきたが、選手のトレーニング方法や、コーチの指導方法に関しては、研修を受けたことがなく、課題を抱えていた。</p> <p>そのため、選手がより効率的に練習できたり、コーチが、選手だけでなく、これから陸上を始めようという障がい者に対しても陸上の面白さや楽しさを教えることができるようになることを目的として、障がい者陸上支援プロジェクトを実施している。</p>		
本年度の活動概要 <p>本年度は以下の活動を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2017年11月5日から11月11日の7日間、岡山県・市のパラキャンプ推進事業補助金を受け、カンボジアパラリンピック委員会(以下、NPCC)から車いす選手2名、コーチ1名を招聘し、グロップサンセリテ所属松永仁志選手/監督、佐藤友祈選手、生馬知季選手から指導を受ける強化合宿を岡山中で実施した。 2017年10月から11月の2か月間、毎週土曜日、カンボジア障がい者陸上連盟(以下、CDAF)と協力し、アンコールワット国際ハーフマラソン出場のためのトレーニングを行った。 <ul style="list-style-type: none"> 障がい者ランナー約30名とスタッフが毎週のトレーニングに参加した。 2018年1月から3月にかけて計4回、障がい者陸上に関する情報交換の場としてオープンクラスを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> 2018年1月10日「2018年度の目標設定・トレーニング内容の確認」 パラ陸上選手6名、コーチ1名、NPCCスタッフ1名が参加。 2018年2月23日「2018年度の目標設定・自己ベストの確認・選考会の振り返り」 パラ陸上選手8名、コーチ1名、NPCCスタッフ1名が参加。 2018年3月9日「競技会のスケジュール、体のケア方法(マッサージ)」 パラ陸上選手18名、コーチ1名、NPCCスタッフ1名が参加。 2018年3月14日「競技会の振り返り」 パラ陸上選手10名、コーチ1名、NPCCスタッフ1名が参加。 2018年3月10日、11日に第二回カンボジアパラ陸上競技会を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> パラ陸上選手28名(立位23名、車いす5名、男性22名、女性6名)が参加 10日協議会終了後に障がいをもつ子ども達のためのファンイベントを行った。バタンバン州やカンダール州から障がい者支援団体3団体合計70名が参加し、パラ陸上選手やNPCCスタッフとともに体を動かすことの楽しさを体験 		
特記事項 <ul style="list-style-type: none"> 2018年1月から3ヶ月間、JICA青年海外協力隊短期派遣として、筑波大学大学院生が1名、2月から1ヶ月間、同大学学群生3名が、障がい者陸上支援のため派遣され、本事業に協力した。 		
次年度の実施計画 <ul style="list-style-type: none"> 障がい者ランナーや指導者のニーズを把握し、継続的な支援につなげていく。 12月のアンコールワット国際ハーフマラソン参加のための支援を継続していく。 		
支援・協力団体 筑波大学、メコン大学、HG飯田クラブ、岡山県、岡山市、岡山南ロータリークラブ、エイコースポーツ、かすみがうらマラソン、筑波フューチャーファンディング、Active People's Microfinance、スタディツアー参加者、ヒロシマ MIKAN マラソン、(有)アトラクシィ、GCS大阪		



岡山でのパラキャンプ



岡山でのパラキャンプ



CDAF とのトレーニング



オープンクラスの様子

カンボジアパラ陸上競技会の様子

事業名	日本語教育事業
事業分類	被災地・紛争地における自立・復興支援

活動理由

(1)チェイ小学校 HG 日本語教室

チェイ小学校で 2000 年 9 月に日本人の教師を派遣して開講した日本語教室は、2015 年 11 月からは、かつてこの日本語教室で学んだスライノッチ、ナムアオイ、ソティアラのカンボジア人教師を中心に継続している。最近では英語やコンピュータ教室が人気で、少し前までは人気があった日本語の学習者は年々減少しているが、少人数ながらも、日本や日本人に親しみを持ってもらおうと、言葉の勉強だけではなく、日本の伝統的な遊びや文化を紹介したり、子供向けのアニメなどを視聴したりと、様々な活動を行っている。

(2)BBU 大学(Build Bright University)日本語講座

シムリアップ市内の青年達への日本語教育のために、BBU 大学外国語センターにおいて、2015 年に日本語講座を開講した。京都民際日本語学校から派遣されている日本人教師と、チェイ小学校 HG 日本語教室の卒業生であるナムアオイ、ソティアラの 3 名が教えている。授業時間は 1 時間で現在は 3 クラスを運営している。学生の多くは、日本語ガイドを目指す人やホテル、レストランなどの観光産業に従事する人達である。近年の中国人観光客や中国系企業の大量流入による中国語の需要の高まりを受け、日本語学習者数の減少は著しいが、日本人が好きで共に働きたいと日本語を勉強する学生達は、日本人観光客と交流できることを心待ちにしながら毎日の勉強を続けている。

* (1)(2)ともに HG が行っている日本語教育には、高等教育という理由で助成金がほとんどなく、下欄の団体の寄付で活動を行っている。

活動概要

(1)チェイ小学校 HG 日本語教室

人数: 15 名 / 内容: 初級

開講日時: 月曜～金曜 午前 11 時～12 時



チェイ小学校 HG 日本語教室

(2)BBU 大学日本語講座

・人数と時間:

D クラス(4名) 火、水、木 午前 10:45～11:45

E クラス(6名) 火、水、木 午後 5:00～6:00

F クラス(6名) 月、火、水 午前 10:45～11:45

*A クラスは初級修了済

*B クラスは BBU のクラスは閉鎖し、HG 事務所内での少人数プライベートクラスへと変更(現在も継続中)

・内容: 初級～初中級



BBU 日本語講座

物資支援

日本の学校から、文房具や教材の支援がある。

卒業生(チェイ小学校HG日本語教室)

HG日本語教室を卒業した生徒は、日本語ガイド、看護師、日本語教師、地元企業での勤務、レストラン勤務、旅行会社勤務等々、それぞれ自立して頑張っている。また、卒業生のうち3名(スライノッチ、ナムアオイ、ソティアラ)がHGのスタッフとして、NCCCや日本語教室で働いている。

今後の活動

チェイ小学校では、週日の午前中に初級クラスを 1 クラス開講。

BBU 大学では、初級クラスだけでなく、中・上級クラスや日本語検定試験対策講座、少人数でのグループレッスンなどを開講し、学生の幅広いニーズに応えていく。また日本への留学や、技能実習生として日本での修学就業についても情報提供などを含めサポートしていく。中・高校での日本語教室を検討。



初級修了証書授与

支援・協力団体:

岡山外語学院、個人支援者、岡山市立平福・野谷・政田・津島小学校、スタディツアー参加者、倉敷平成ライオンズクラブ、(株)MUGEN、こまち HG

事業名 養護施設運営【ニュー・チャイルド・ケア・センター(NCCC)】



事業分類 被災地・紛争地における自立・復興支援

NCCCの目的 : 孤児、あるいは孤児に準ずる子ども(両親や親戚が養育できない状態に陥った子ども)が安心して生活できる環境で養育を受け自立できるよう物心両面から支援し、良き市民としてカンボジアを担っていく人材を育成する。

場所: シェムリアップ州タクヴェル郡チェイ村

子どもの数: 16名 (2018年3月31日現在)

1人の子どもがNCCCを卒園

本年度は1名が残念ながら中学の卒業試験に不合格となり、本施設を卒園せざるを得なかった。現在は長らく音信不通であった母親と生活を共にし、母親と同じ食堂で働いている。この母子の生活が安定することを願っている。



校外教育

・**日本語教育**: チェイ小のHG日本語教室に、小学生が週5日(月～金)参加している。またNCCCの小学校高学年と中学生は週4日(月～木)NCCC内の日本語教室で学んでいる。さらに高校生2名は、シェムリアップ事務所で実施しているBBU日本語講座分室で大学生と共に日本語を学んでいる。現在日本語能力資格試験に向けて勉強中である。

・**アプサラダンス**(クメール伝統舞踊): カンボジアの伝統に触れるため、毎週日曜日の午前中に2時間習っており、センター訪問者に踊りを披露している。

・**絵画教室**: 昨年同様、月2回(隔週の土曜日午後)、「小さな美術スクール」(主宰者・笠原知子先生)で、絵画教室(油絵やアクリル絵)に参加。今年も、ウォーキングイベントのTシャツのデザインは子ども達の絵を採用した。



アプサラダンス

歯科検診と歯磨きの習慣

引き続き本年度も12月に、TAO(東洋医学研究会)の歯科医の先生方に、歯科検診と虫歯予防教育を実施していただいた。3年前から始まったこの活動により、子ども達には毎日の歯磨きの習慣が付き始め、虫歯が減ってきている。



歯科検診

畑での野菜の収穫

今年も、スタッフのタイリーが中心となって畑作を行い、少ないながらも野菜が収穫できた(空芯菜、大根など)。子ども達は畑仕事を手伝うことで農作業の大変さや収穫の喜びを学んでいる。

日本との交流 (年間 25 組を受け入れ)

今年も神戸学院大学の学生達が夏休みに来訪、ミニ運動会を開催してさまざまな競技を教えてくれたり、たこ焼きと一緒に作ったりして大いに盛り上がった。岡山学芸館高校・清秀中学校は、今年も継続して来訪され、ボランティア活動(支援してくれた浄水器の整備や野菜栽培)に汗を流した。学芸館SGHチームは子ども達と交流後、チェイ村で聞き取りをした。岡山の第3藤田小学校とのスカイプを使った交流では、お互いに顔を見ながら声を聴きながらの交流を継続することで、子ども達は、行ったことのない日本の生活や学校について想像力を膨らませた。また、ハート・ペアレント(里親)さん7名がHGスタディツアーに参加して、子ども達と楽しいひと時を過ごした。

インターン受け入れ

2017年4月から2018年1月までの10か月間、広島大学の学生1名がインターンとしてシェムリアップの活動(NCCC&日本語教育)に参加した。




スカイプで日本の学校と交流

新しい10年に向けて

本年度後半は新しい10年に向けて、将来子供たちが一般社会において自立生活ができるよう社会勉強を取り入れた指導に着手した。その第一歩として1月に職業教育を実施(先輩の話、職業訓練所職員の話等)、3月下旬に歴史教育を兼ねた園外活動として世界遺産であるプレアヴィヒアを訪れた。今後は、市場での買い物経験、職業訓練所訪問等、活動範囲を広げていく予定である。

支援・協力団体

ハート・ペアレント、スタディツアー参加者、TAO(東洋医学研究会)、高野山真言宗南真会、岡山せとうちライオンズクラブ、岡山学芸館SGH・清秀中学校、協力小・中・高・大学、(株)翌檜、(有)キャッチボールカモンR、(株)MUGEN、きずなの会有志一同、日本空港ビルディング、アリモリカップマラソン、(株)パンネーションズコンサルティング

事業名	サービスラーニング（ESD=持続可能な開発のための教育）事業	
事業分類	国際理解・交流事業	
支援対象	日本国内（小・中・高校・大学） カンボジア（BBU 日本語講座、New Child Care Center (NCCC)、チェイ小 HG 日本語教室、体育科認定校）	

活動概要

学校が取り組んでいる総合的な学習や、国際理解教育、ボランティア教育などに協力する。

子ども達が、世界の現状（貧困・環境・平和など）に目を向け、グローバルな視点から、国際理解（異文化理解）を深めると共に、自分理解の助けとなるような活動とする。学習方法は、講演（カンボジア来訪者、スタッフ他）IT 機器による交流（メールやスカイプなどを利用）、ビデオ、文通、現地を訪問するなど、様々な手段を利用。そして交流したなかで、異文化理解や持続可能な開発などについて考え、自らの生活を見直し、自分達の可能性と力に目覚め、進んで社会のために活動できる人材を育成する。

1) 出前授業

年間 21 回の出前授業を実施（代表、HG 本部スタッフ、東南アジア事務所スタッフ、日本語教師、留学生、カンボジア車いすランナー）。実際に活動している人から話を聞くことにより、現地を理解し、自分達にもできる活動について考える。

第 3 藤田小学校、朝日塾小学校、野谷小学校、政田小学校、連島東小学校、清輝小学校、岡山清秀中学校、岡山学芸館高校、他



出前授業

2) 交流

手紙やプレゼントの交換、スカイプでの交流を通して異文化理解を深めた。

日本の教室と NCCC をスカイプで結んで、お互いに歌や体育実技等を披露し合った。両国の子ども達にとって、直接、顔が見え声が聞こえる貴重な機会になった。

3) 派遣・研修受入

カンボジアへの受入：日本の中（1）高（1）大学（6）から、スタディツアーを受入れ研修・交流をした。

カンボジアから受入：教育省担当官が、岡山大学と岡山・倉敷の小・中学・高校で研修を行った。



スカイプで音楽演奏

4) 設備・物資支援（日本の学校からの寄付金はまとめて施設や教材の支援に活用）

アソールウォーキング大会、体育教育研究指定校、NCCC などに必要な物資を、日本の協力学校や団体が集め、ツアーで持ち込み、必要な所に配付。募金は、体育用具支援として、鉄棒（7 校）、マット（10 校に 10 枚）、ボール（39 個）、ストップウォッチ 15 個をカンボジアの小学校に贈呈・設置した。

支援物資は、T シャツ、教材、文房具、歯ブラシ、カレンダー、石鹸、衣類、タオル、遊具、生活用品などを持ち込み、小学校や施設他に配付した。



生活用品を支援してもらいました

5) 現地受入れ（26 回）

高校生・大学生、NGO などのスタディツアーや個人を、カンボジアの活動現場（NCCC、運動会、BBU）に受入れ、国際協力活動や交流を実施。現地での実体験は日本の学生にとって大きな刺激となり、グローバル人材育成に寄与した。



大学生との交流

成果 年間を通じて途上国に関わることで、貧困、環境、食料、人権、平和などがつながりをもって連関している事を知る。また、自分達のおかれた地域に目を向け持続可能な社会を協力して作る事の大切さを理解。自分たちが支援した募金・物資などが、現地に渡され喜ばれ活用されたことを知ることで、活動の意味を見つけた。

相手の立場に立って考えられる冷静さと、継続する大切さなどを確認。友人や家族と共に活動して自分の身のまわりから変えていくことで社会を変えていく喜びを感じた。2017 年度も教育現場の先生方が現地で活動されたことで、子ども達にグローバルな視点から異文化理解・国際協力が広がることを期待したい。

今後の計画

現地スタッフやカンボジア人などができる範囲で学校訪問をして、直接顔の見える交流の機会を増やす。学校が取り組む「SDGs/持続可能な開発のための目標」に協力し、実践を通して子ども達が地球規模で未来を考え、社会性が育つ手助けや、日本の青少年をインターンやボランティアとして受入、体験を通しての成長を育みたい。

助成・協力団体

岡山 ESD 推進協議会、岡山市立政田・第三藤田小学校、倉敷市立連島東小学校、個人支援者、(株)イナダ、淀川国際ハーフマラソン、就実中・高校、順天中・高校飛鳥会

2018年度 事業計画書（案）

（期間：2018年4月1日～2019年3月31日）

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド

（1） 特定非営利活動に係る事業

定款の事業分類	事業名	主な事業内容	実施場所
国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力事業	・アンコールワット国際ハーフマラソン(AWHM)後援	・スタディツアーの有志が参加し大会を盛り上げる	カンボジア(シエムリアップ)
	・リレーション大会 ・スポーツフェイド ・チャリティイベント	・チェイ小学校で子ども達とミニ運動会をして交流する ・チャリティマラソンやスポーツイベントの実施・協力 ・チャリティイベントの開催協力	日本
スポーツを通じた開発支援事業	・小学校体育科教育振興支援	・教育省の地方での体育ワークショップや青年海外協力隊との連携、HPでの動画により体育をさらに普及していく ・教育大臣を始めとしたキーパーソンへの働きかけを継続	カンボジア
	・スポーツ施設設置	・体育拠点小学校・中学校に施設を支援	
	・中学校体育科教育指導書作成・普及事業(JICA草の根技術協力) ・NIPES4年制大学化プロジェクト(外務省 NGO 連携無償資金協力)	・指導書執筆ワークショップ(4回) ・指導書案・導入モデル州ワークショップ(3州) ・体育実施状況モデル州モニタリング(3州) ・カリキュラム内容検討ワークショップ ・アドミッション・ポリシー等検討ワークショップ ・体育本邦研修	
障がい者支援事業	・障がい者陸上競技支援	・障がい者ランナーや指導者のニーズを把握しながら、障がい者短距離陸上競技会開催や選手・コーチの能力向上への支援を継続する ・アンコールワット国際ハーフマラソン参加への支援継続	カンボジア
	・日本のマラソン大会への招聘	・障がい者ランナーをかすみがうらマラソン等に招聘する	日本
被災地・紛争地における自立・復興支援事業	・日本語教育	・チェイ小学校の日本語教室(初級)は継続。 ・BBU大学の日本語講座は、中・上級クラスや日本語検定試験対策講座、少人数でのグループレッスンなどを開講し、学生の幅広いニーズに応じていく。	カンボジア(シエムリアップ)
	・養護施設(NCCG)運営	・孤児や貧困児童を受入れ養育する(里親制度) ・ローカルスタッフの人材育成 ・日本の学校との交流 ・岡山学芸館高校に1年間の留学予定(8月～7月)	カンボジア(シエムリアップ)
	・子どもの健康増進・疾病予防	・12月に日本人医師による歯科検診(チェイ小学校) ・むし歯予防のための歯磨き指導 ・設置済み浄水器のメンテナンス	カンボジア(シエムリアップ)
	・3.11子ども animo プロジェクト	・被災地の小学校の支援	宮城県
国際理解・交流事業	・スタディツアー	・国際協力の現場見学とボランティア体験や交流により貧困・平和・開発について理解を深める ・学生や団体のスタディツアー受入れ	カンボジア
	・サービスマスターニング(学校教育支援)	・学校や団体に講師を派遣 ・国際協力の実践的学習の場を学校に提供 ・スカイプや文通、メールによる現場との交流の機会提供	日本 カンボジア
	・研修・啓発・講演会	・国際協力パネル展に出品、講演会に参加	
	・インターン受入れ(国内外)	・インターンの受入れ(短・長期)	
その他、本法人の目的を達成するために必要な事業	・調査/研修 ・広報活動	・調査実施。シンポジウム、国際会議への参加 ・「通信」を年2回発行 ・ホームページの更新、記録映像の保存 ・20周年記念ブックレット作成	日本 カンボジア

（2） その他の事業

定款の事業分類	事業名	事業内容	実施場所	実施日
バザーその他物品販売事業	・チャリティバザー ・グッズ販売 ・パネル展示	・各地で開催されるイベントへの参加。 ・Tシャツなどの販売やパネル展示を通して活動資金を集めるとともに、活動の広報を通して国内での支援者の拡大を図る。	日本	随時